

<b>指定管理者評価シート</b>
-------------------

事業名	青少年山の家運営管理費	所管課(電話番号)	教)生涯学習推進課 (211-3872)
-----	-------------	-----------	----------------------

### I 基本情報

<b>1 施設の概要</b>			
名称	札幌市青少年山の家	所在地	南区滝野247番地
開設時期	平成元年9月	延床面積	5,234㎡
目的	自然環境の中における宿泊を伴う集団生活、野外活動その他の活動を通じて青少年の健全な育成を図ることを目的とする。		
事業概要	野外活動の指導助言・普及振興・調査研究、施設の利用調整など		
主要施設	管理研修棟、宿泊等、多目的ホール		
<b>2 指定管理者</b>			
名称	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会		
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
募集方法	公募		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>①統括管理業務</li> <li>②施設・設備等の維持及び管理に関する業務</li> <li>③施設における事業の計画及び実施に関する業務</li> <li>④施設の利用等に関する業務</li> <li>⑤前各号に掲げる業務に付随する業務</li> </ul>		
<b>3 評価単位</b>	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和4年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価			
1 業務の要求水準達成度						
(1) 統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>安心・安全な利用環境を確保し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う利用制限を行うとともに、利用ニーズに応え、円滑に利用できるように取り組んだ。また、市中の感染状況等を見極めながら利用方法や活動プログラム及び事業の実施について随時見直し、変化に応じながら管理運営を進めた。</p> <p>活動プログラムでは感染対策と教育的価値・利用者満足度向上の両立へ向けて通常の野外炊事メニューを再開し、利用団体への合同説明会をオンライン方式で実施する等、状況に応じてプログラムを開発・実施した。また、参加者自身が中心となって楽しみながら活動できる探究的な活動を推進するため、主に学校指導者に対し、余裕を持った計画の必要性について支援し、より良い学習環境の醸成に努めた。</p> <p>実施事業では社会課題の状況を鑑みながら、体験活動の普及振興へ向けて取り組んだ。コロナ禍により生じた青少年、親子世帯の体験活動機会を補填し、また、体験活動の更なる普及振興を題材として、宿泊事業を再開した。さらに札幌市林間学校運営会に参画するため、令和5年度実施に向けて準備を進めた。</p> <p>施設管理では国営滝野すずらん丘陵公園と交渉して多目的ホールの照明設備のLED化工事を進めた。また、経費節減のため委託業務の見直しや、計画的な点検、修繕業務を行った。さらに職員によって石階段や植栽樹木等の外構を計画的に整備し、環境改善にも取り組んだ。</p> <p>札幌市林間学校、冬の自然体験フェスでの活動での事業実施等をおして札幌市野外活動教育研究会(以下、野活研)との協働関係を深めた他、施設運営協議会の実施等をおして国営滝野すずらん丘陵公園、芸術の森地区連合町内会をはじめとした他団体・他施設との連携の強化について引き続き推進した。</p>	<p>社会情勢の変化に対応するため、指定管理業務計画書の検証、自己評価を随時行い、課題認識と優先順位を検討しながら施設管理を行った。</p>	A	B	C	D
			<p>令和4年度についても感染症拡大による施設休館や利用制限を行った上での運営となったが、施設の利用方法に沿った感染症対策の他、本来の利用日とは別に予備日を設けるなど、利用者の不安軽減に努めている。</p> <p>また、施設紹介や自然体験に関する動画コンテンツを配信するなど、施設の効用を最大限発揮できるような取組を実施している。</p>			
	<p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p>					

平等利用を確保するため、使用承認に関連する札幌市青少年山の家条例、同条例施行規則及び各種取扱要領等に関する理解と、必要な利用者対応について、日常的に職員間で確認し統一を図った。

地方自治法第244条第2項及び第3項を遵守するとともに、札幌市青少年山の家条例をはじめ、関係法令、社会通念を鑑み、すべての市民及び団体に対して平等利用の確保を行った。

平等利用を確保するための方針及び取組項目が明確化されているほか、職員が共通認識をもって利用者対応にあたり、適切に取り組んでいる。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

札幌市の環境方針及び札幌市環境マネジメントシステムに基づき作成した職員環境行動マニュアルに沿って、職員一人ひとりが行動を起こせるよう、日常業務や打合せで確認を行った。また、職員研修においても環境教育の充実を図った。

その他、ペーパーレスを目指しデジタルデバイスの活用を進め、裏紙の再利用についても取り組んだ。また、節電、節水についても省エネについて考えてもらう掲示物の作成や活動プログラムに反映させるなど、利用者とともに積極的に取り組んだ。

指定管理業務の遂行にあたっては、温室効果ガス排出量の削減につながるエネルギー使用量を計画し、事業活動のあらゆる場面において、訪れる市民への環境配慮行動の啓発を行った。

エネルギー使用の検討・見直しを行い、職員はもとより、利用者に対しても環境配慮の推進に努めている。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

統括責任者として館長に野外施設部長を配置し、当財団が指定管理者として管理運営する定山溪自然の村、北方自然教育園及び財団が自主運営する滝野自然学園を含め、事業や研修等に複合的に取り組むことで、相乗効果を図った。

また、研修計画に基づき、職員の資質向上のため各種研修を実施し、マネジメントについて学ぶ機会や、オンラインによる外部研修の機会を活用し、専門的知識や新しい情報の習得を図った。併せて、公園を管理する管理事務所及び公園指定管理者のSPAC滝野管理センターとの良好な関係の維持に努めた。

当財団他施設(定山溪自然の村、北方自然教育園)と連携し、野外教育施設職員として必要な資質の向上に努めた。

研修では次の事業展開を検討する等、実践的に人材を育成した。また、SPAC管理センターとの事業連携にも積極的に取り組んだ。

他施設と連携を取りながら管理運営を行える組織体制となっている。また、専門知識の取得のため研修を行う等、積極的に人材育成に努めている。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

利用者アンケートや利用対応をとおして寄せられた要望・意見に関する情報は、随時、職員間に共有し、迅速に改善できるように取り組んだ。

職員間の情報共有の方法として、当財団内のネットワークシステムを活用し、全職員が集まる機会が限られた中でも、迅速に連携できるよう工夫を図った。

その他、安全点検を含めて始業時の朝礼と終礼を毎日実施した他、各担当者同士の会議、運営に関わる会議、全体での会議を使い分け、効果的かつ効率的に会議等を実施した。

公園管理者とは公園合同連絡会議、安全衛生協議会を通じて連絡調整の機会を定期的に設けた。

利用団体の満足度の向上や新規利用の獲得へ向けた取組みについて、中・長期的な見通しのもとで随時検討を重ねた。管理水準の維持及び更なる向上のため、施設職員、当財団の他部門職員、公園管理者との情報共有・連携を行った。

中長期の見通しに基づいた研修計画が策定され人材育成に取り組んでいる。

また、日常業務のなかでも職員間の情報共有が図られる工夫や公園管理者との連携にも努めている。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

資格及び専門的知識・経験を必要とする業務について、当財団の規定に基づき業者選定や入札等の所定の手続きを適切に行い、専門業者に委託した。委託業務の履行にあたっては、市民サービスの向上へ向け、利用者の安全の確保に十分に留意し進めた。

- ・警備業務 ・清掃業務 ・滝野の森口門衛業務
- ・建築物環境衛生管理技術者委託業務
- ・複合機賃貸借業務 ・事務機器賃貸借業務
- ・ノートPC賃貸借業務 ・サーバー機器賃貸借業務
- ・AED(自動体外式除細動器)賃貸借業務
- ・束薪・井桁薪購入業務 ・自家用電気工作物保安管理 ・塵芥処理業務 ・利用状況管理システム保守業務
- ・リネンサプライ業務
- ・自動販売機による商品の販売業務(飲料水・アイスクリーム)
- ・給食業務 ・屋内外雑排水管清掃
- ・汚水槽、グリスピット清掃 ・消防設備点検
- ・地下タンク、埋設管点検 ・空気環境測定
- ・受水槽・貯湯槽等清掃消毒点検
- ・水質検査 ・石油燃焼機器点検
- ・浴場用ろ過循環配管薬品清掃業務
- ・高温風暖房機保守点検
- ・吸煙装置保守点検業務(昇降点検)
- ・吸煙装置保守点検業務(排風機点検)
- ・研修棟温水ボイラー煤煙濃度測定
- ・多目的ホール棟ボイラー整備業務
- ・研修棟ボイラー整備業務
- ・ねずみ衛生害虫等防除業務(4、8、10、12、2月)
- ・道銀ビジネスWEBサービス
- ・建築基準法12条に基づく点検(設備点検)

主に食堂業者及び清掃業者に対しては、新型コロナウイルス感染症及び各種感染症予防のため必要な取組みについての指導や、館内外の消毒管理などを委託し、安全衛生対策の徹底に取り組んだ。今後も、安全衛生について随時、確認を行い履行水準の確保に努めていく。

委託先の選定に関し企画競争を新たに取り入れるなど、適宜契約方法の見直しが図られている。

安定的に施設の運営管理を行うため、業務内容の見直し等に引き続き取り組んでいきたい。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回	令和4年6月24日 ＜配布資料＞令和3年度年度利用状況、アンケート調査結果について、令和3年度年度事業報告、令和4年度年度事業計画について
第2回	令和4年12月14日 ＜配布資料＞ ・令和4年度利用状況、アンケート調査結果報告、令和4年度事業中途報告(各4～10月分)、利用団体見学
<p>＜協議会メンバー＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市教育委員会 生涯学習部生涯学習推進課長</li> <li>・国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 国営滝野すずらん丘陵公園事務所、課長</li> <li>・札幌市小学校長会 事務局長、幹事</li> <li>・札幌市野外活動教育研究会、会長</li> <li>・公益社団法人札幌市子ども会育成連合会 本部 事務局長</li> <li>・北翔大学 生涯スポーツ学部 健康福祉学科 教授</li> <li>・芸術の森地区連合会 会長</li> <li>・滝野町内会 会長</li> <li>・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 野外施設部長(札幌市青少年山の家 館長)</li> </ul>	

【滝野公園連絡会議】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日 程 4～3月(月1回)、年間12回開催</li> <li>・メンバー 国営滝野すずらん丘陵公園事務所 SPAC滝野管理センター</li> <li>・内 容 月の利用状況等の確認、協議連絡</li> </ul>
--

【滝野公園安全衛生会議】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日 程 6～2月(月1回)、年間9回開催</li> <li>・メンバー 国営滝野すずらん丘陵公園事務所 滝野管理センター 公園内工事等の各業者</li> <li>・内 容 月の工事予定、安全管理について</li> </ul>
--

運営協議会では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策についての意見や質問があり、施設における対策の説明を行った。  
また、新たな事業の実施状況や効果についても質疑があり、防災炊事をはじめ、社会情勢の変化に合わせた事業実施について一定の評価をいただいた。

協議内容も適正に委員会まで共有されており、施設内にも掲示されている。  
引き続き協議会で挙げた意見を踏まえ、日々の施設運営に繋げていきたい。  
加えて、市外類似施設等とも積極的に情報交換し、管理水準の向上に努めていきたい。

国営滝野すずらん丘陵公園へのヒグマ侵入は無かったが、公園事務所と随時協議し、開園時間外の安全確保と利用環境確保についてすり合わせを行った。引き続き良好な関係を維持し、会議以外の場においても、日頃から密に情報共有を行っていく。

【CISEネットワーク会議】

・日 程	運営委員会:6月29日、11月17日 ワーキンググループ会議:6月23日、 8月17日、12月22日(全てオンライン) サイエンスフェスティバル:1月28・29日
・メンバー	北大総合博物館を中心とした 札幌市周辺の教育施設(25施設)
・内 容	事業の計画、教材の開発、 事業の実施について

オンライン会議を通じて準備を進めながら、他団体との関係性の構築及び情報交換を図った。  
1月に事業を実施した。

【生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク会議】

・日 程	書面開催
・メンバー	札幌市内の生物多様性関連19施設
・内 容	生物多様性に係る連絡調整 及び事業の実施

オンラインスタンプラリー事業に参画し、他団体の取り組みを知ることができた。

【北海道青少年教育施設会議】

・日 程	5月10日総会・研究協議会(オンライン) 11月21~22日研修会 12月1~2日会議・研修会
・メンバー	国立日高青少年交流の家 国立大雪青少年自然の家 道内各ネイパル他、施設協議会 加盟施設(全17施設)
・内 容	総会、研修会、交流会

研修会は実践的な学びの場となった。総会・役員会では、各施設について情報交換を行うことができ、得られた知見を施設の運営向上へとつなげることができた。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

指定管理者として、また公益財団法人としての社会的責任(CSR)を自覚するとともに、その責任を果たすべく、法令等の遵守を徹底し、当財団の処務規程及び財務規程に則り、適正に資金管理を行った。

当財団が定める処務規程と金券等取扱要領に基づき、金銭の取扱い及び経理事務を適正に行った。

財務検査の結果、適正に実施されていることを確認した。

▽ 要望・苦情対応

利用者及びその他の市民からの要望・苦情等に対して、常に誠実な姿勢で聞き取りを行うとともに、要望・苦情等の根本となる要因の把握に努め、利用者の立場に立って迅速・丁寧に対応した。また、全職員で遅滞なく情報を共有し、対応に差異が生じないように取組むとともに、要望・苦情等をサービス向上の機会と捉え、その後の利用サービスに反映させることで、利用者満足度の向上に努めた。

アンケート等に記載があった場合は、受取り時点で団体代表者から詳細を聞き取ることを徹底し、以降の類似ケースの発生の低減に務めた。

要望・苦情に対しては、迅速かつ適切な対応が取られていた。

	<p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>指定管理業務の実施に関する記録・帳簿等を整備し、当財団の処務規定に基づき適正に保管した。また、統括責任者が中心となってマネジメントに努め、利用統計、利用者アンケート、利用者の声、職員の自己評価などを施設運営の改善につなげるとともに、翌年度の事業計画への反映を図った。</p>	<p>利用者を対象としたアンケート調査により満足度の測定を行い、各項目において数値目標を達成することができた。</p>	<p>業務検査の結果、適正に記録・管理されていることを確認した。引き続き利用者の声を踏まえ、管理水準の維持向上に努めていただきたい。</p>								
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>労働基準法、労働安全衛生法、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法等の労働関係法令を遵守するため、就業規則を整備し、必要な届け出を確実にを行うとともに適切な労務管理を行った。</p> <p>また、職員一人ひとりのライフスタイルに合わせた働き方ができるよう、雇用環境の向上に取り組んだ。</p>	<p>法令遵守のもと、年次有給休暇の取得を推進した。また、時間外勤務削減等、効率化につながる勤務体制の見直しを行い、労働環境の整備に努めた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4">適切に取り組んでいる。引き続き、職員の働きやすい環境づくりに努めていただきたい。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	適切に取り組んでいる。引き続き、職員の働きやすい環境づくりに努めていただきたい。			
A	B	C	D								
適切に取り組んでいる。引き続き、職員の働きやすい環境づくりに努めていただきたい。											
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総合的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の安全確保 日常的に施設内外、ハイキングコース等の巡回を行い、危険個所の早期発見、迅速な初期対応により、利用者の安全確保及び施設利用の妨げにならないよう配慮し、整備に努めた。</li> <li>・市民サービス向上への配慮 利用アンケート調査を行い、利用者の満足度を測定するとともに、意見、要望等の把握に努め、寄せられた意見に対し誠実に対応した。</li> <li>・連絡体制確保 札幌市教育委員会、国営滝野すずらん丘陵公園事務所、滝野管理センター、関係機関との連絡体制を確立し、緊急時に迅速な対応をとれるよう備えた。</li> <li>・保険加入 万が一の場合に備え、各種損害賠償責任保険に加入した。</li> </ul>	<p>施設管理業務マニュアルを整備し、日常の点検方法等について定めるとともに、非常時においても職員が適切に行動できるよう、具体的な手順を記載した。</p> <p>また、緊急時の連絡体制については、必要な情報を迅速に把握できるよう、今後も積極的なアプローチを継続していく。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4">館内及び周辺フィールドともに、常に整備が行き届いた状態が維持された。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	館内及び周辺フィールドともに、常に整備が行き届いた状態が維持された。			
A	B	C	D								
館内及び周辺フィールドともに、常に整備が行き届いた状態が維持された。											

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

建物・設備等の点検は、施設内外の劣化や機能の低下の有無について日常的に実施し、破損や不具合等については発見次第、早急に修理などの対応を行った。

<警備業務>

休館日及び夜間における施設の警備、施錠・開錠等、施設内外の警備を専門業者に委託し実施した。

<清掃業務>

施設内外の清潔感、衛生面を考慮し専門業者に委託し実施した。また、ワックスがけなど特殊な技術が必要なものについても特別清掃として同業者に委託した。

<塵芥処理業務・産業廃棄物収集運搬処理業務>

一般廃棄物、飲料缶・ビン・ペットボトル等の再生可能廃棄物、生ゴミ等の日常的な廃棄物について専門業者に委託し、定期収集により衛生管理上の問題が生じないように処理した。また、産業廃棄物等については適時専門業者に依頼し処理した。

日常的な点検や整備により、常に良好な状態を保つよう管理し、維持管理の作業にあたっては、施設利用者の支障にならない時間帯や作業内容に配慮した。

朝礼及び終礼の引継ぎ、事業日誌での情報共有を通して職員間で確認を行い、危険箇所の早期発見、故障の未然防止に努めるとともに、故障が起こった際は迅速な初期対応を行うことで、利用者の安全確保に努めた。

法令及び要求水準に基づき、適正に業務が実施された。

法令に基づく管理項目

- 1.自家用電気工作物保安管理  
(月次点検年12回実施/毎月、年次点検年1回実施/11月)
  - 2.受水槽・貯湯槽等消毒点検(年1回実施/9月)
  - 3.空気環境測定(年6回実施/4、6、8、10、12、2月)
  - 4.ねずみ衛生害虫等防除業務(年5回実施/4、8、10、1、2月)
  - 5.水質検査(年3回実施/6月、10月、12月)
  - 6.屋内外雑排水管清掃(年2回実施/5月、11月)
  - 7.汚水槽・グリスピット清掃(年2回実施/5月、11月)
  - 8.消防設備点検(年2回実施/8月、12月)
  - 9.地下タンク・埋設管点検(年1回実施/8月)
  - 10.研修棟ボイラー煤煙濃度測定(年2回実施/9月、3月)
  - 11.研修棟ボイラー整備(年1回実施/7月)
  - 12.多目的ホールボイラー整備(年1回実施/7月)
  - 13.多目的ホール吸煙装置保守点検(昇降点検)  
(年1回実施/7月)
  - 14.多目的ホール吸煙装置保守点検(排風機点検)  
(年1回実施/11月)
  - 15.石油燃焼機器点検(年1回実施/8月)
  - 16.浴槽循環装置(ろ過器)清掃(年1回実施/3月)
  - 17.高温風暖房機保守点検(年1回実施/11月)
  - 18.建築物環境衛生管理技術者(年12回実施/毎月)
  - 19.建築基準法12条点検(年1回実施/9月)
- ※すべて第三者(専門業者)委託による。



	<p>▽ 防災</p> <table border="1"> <tr> <th>訓練実施日</th> <th>実施内容</th> <th>想定内容</th> </tr> <tr> <td>令和4年 5月25日</td> <td>総合訓練 (消火、通報、避難、災害対策)</td> <td>火災、地震等を想定しての総合訓練</td> </tr> <tr> <td>令和5年 3月17日</td> <td>部分訓練 (消火、避難、災害対策)</td> <td>火災、地震等を想定しての部分訓練</td> </tr> </table>	訓練実施日	実施内容	想定内容	令和4年 5月25日	総合訓練 (消火、通報、避難、災害対策)	火災、地震等を想定しての総合訓練	令和5年 3月17日	部分訓練 (消火、避難、災害対策)	火災、地震等を想定しての部分訓練	<p>防火管理者を配置し、南消防署へ自衛消防組織と消防計画を提出している。また、年2回消防訓練と救命講習を受講する等、災害時を想定した行動について再確認を行った。また、令和5年2月より、防火対象物点検特例認定施設として認定を受けた。</p>	<p>非常時に利用者の安全を確保するための防災体制が構築されている。今後も、様々な事例を想定し、万全の準備をするよう努めていただきたい。</p>											
訓練実施日	実施内容	想定内容																					
令和4年 5月25日	総合訓練 (消火、通報、避難、災害対策)	火災、地震等を想定しての総合訓練																					
令和5年 3月17日	部分訓練 (消火、避難、災害対策)	火災、地震等を想定しての部分訓練																					
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 青少年の集団生活・野外活動等の指導助言に関する業務</p> <p>①施設利用に係る利用者への指導助言</p> <p>利用団体の活動がスムーズに行われるよう、プログラム立案時の事前相談、入館から退館まで適切な利用案内及び積極的な指導助言を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前調整</li> <li>・利用打合せ</li> <li>・活動支援</li> <li>・夜間対応 等</li> </ul> <p>・利用支援・促進事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合同説明会</td> <td>156校354名</td> </tr> <tr> <td>合同下見会及び個別下見対応事業</td> <td>855名</td> </tr> <tr> <td>出前授業</td> <td>97校7,539名</td> </tr> <tr> <td>令和5年度市内小中学校利用抽選会</td> <td>188校</td> </tr> <tr> <td>プログラム体験会</td> <td>30名</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	参加人数	合同説明会	156校354名	合同下見会及び個別下見対応事業	855名	出前授業	97校7,539名	令和5年度市内小中学校利用抽選会	188校	プログラム体験会	30名	<p>現状下に対応したガイドラインを作成し、利用の受け入れにあたった。合同説明会では、プログラムの紹介及び事務手続きに関する説明をオンライン上で21回実施した。合同下見会は7回481名、個別下見では101団体374名を対応した。出前授業では事前に職員が学校に出向き、学習効果を高めるための支援を行った。抽選会については、所管部局と小学校教頭会長立会いのもと、オンライン抽選により実施した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>合同下見会の他にも対応することによって、参加する団体がより相談しやすい体制の整備に努めている。特に職員が学校で実施する出前授業の実績が前年度よりも大幅に伸びており、より効果の高い宿泊学習の実施に寄与している。学校のニーズ等も把握し、さらに充実した事業となるよう引き続き努めていただきたい。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>合同下見会の他にも対応することによって、参加する団体がより相談しやすい体制の整備に努めている。特に職員が学校で実施する出前授業の実績が前年度よりも大幅に伸びており、より効果の高い宿泊学習の実施に寄与している。学校のニーズ等も把握し、さらに充実した事業となるよう引き続き努めていただきたい。</p>			
事業名	参加人数																						
合同説明会	156校354名																						
合同下見会及び個別下見対応事業	855名																						
出前授業	97校7,539名																						
令和5年度市内小中学校利用抽選会	188校																						
プログラム体験会	30名																						
A	B	C	D																				
<p>合同下見会の他にも対応することによって、参加する団体がより相談しやすい体制の整備に努めている。特に職員が学校で実施する出前授業の実績が前年度よりも大幅に伸びており、より効果の高い宿泊学習の実施に寄与している。学校のニーズ等も把握し、さらに充実した事業となるよう引き続き努めていただきたい。</p>																							

②提供プログラム

更なる自然体験活動推進のため、施設及び国営滝野すずらん丘陵公園フィールドを活用し、環境教育・ESD(持続可能な開発のための教育)及び様々な社会的課題の解決(SDGs)の視点を意識することで、より魅力的な活動プログラム(事業)を開発と提供を行った。

団体の特性や希望に寄り添うことを第一に実施した。季節や荒天時など、状況の変化を想定した対応を用意し、更なる体験活動の充実へ向け、より効果的な指導助言を心がけて対応した。特に学校団体に対しては、現学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」を基軸に学校の指導方法についての理解や、教職員との信頼関係を深めることに努め、学校活動に寄り添った支援に努めた。

防災の視点を取り入れた防災炊事の実施など、コロナ禍においても実施可能なプログラムの開発に努めている。  
引き続き状況に応じ、多用なプログラムを実施できるよう検討を行っていただきたい。  
学校利用の際のプログラムについても、学校と十分に連携し、子どもたちにより豊かな自然体験活動を提供できるよう、指導・助言を行っていただきたい。

分類		活動プログラム
野外活動	自然体験	春 夏 秋 ・ハイキング ・ウォークラリー ・オリエンテーリング ・キャンプファイヤー ・ナイトハイキング ・火起こし体験 ・星空観察 ・自然観察 ・野外で授業ウォークラリー ・バードウォッチング
		冬 ・自然観察 ・スノーシュートレッキング ・チューブすべり ・アニマルトラッキング ・イグルーづくり ・歩くスキー ・スノークラフト など
	炊事	・防災炊事 ・焚火でおやつ体験 ・野外炊事

分類		活動プログラム
室内活動	動的活動	・室内キャンプファイヤー ・キャンドルサービス ・ソフトバレーボール ・バドミントン ・フォークダンス ・ニュースポーツ ・レクリエーション その他新規開発プログラム (館内いきもの探し)
	クラフト活動	【セルフクラフト】 ・マイ箸づくり ・木のマグネット ・軟石クラフト ・風車

▽ 青少年の集団生活・野外活動の普及・振興に関する業務

① 青少年キャンプ事業

これまで当財団が実施してきた自然体験活動事業のノウハウを最大限に発揮することを念頭に事業を展開した。自然体験の場、集団生活の場としての機能を十分に発揮し、自然とのふれあいや日常生活とは異なる活動の中で、豊かな感性や知的好奇心、健やかな体を育み、青少年の健全育成に努めた。

事業名	回数	参加人数
札幌市林間学校(協力)	事前2回 夏季3回 冬季3回	66名 147名 133名
体験プログラム提供事業	16回	541名
冬の自然体験フェス	1回	382名
防災プログラムモニター事業	1回	86名
青少年の課題解決に向けた事業	1回	26名
Re:滝野宿泊学習	事前1回 当日1回	30名 31名

② 生涯学習事業

札幌市の野外教育施設として、生涯学習の観点から、札幌市の教育推進の目標及び教育推進の指針等、札幌市の生涯学習推進に関連する諸施策を踏まえ、野外教育の普及と啓発を図った。

事業名	回数	参加人数
地域交流事業	4回	2,987名
自然観察ハイキング	1回	38名
大人も子どもも宿泊学習	1回	56名

札幌市林間学校(協力)及び冬の自然体験フェスでは札幌市教育委員会、札幌市野外活動教育研究会などの関係機関と連携し、主に小学生向けの自然体験プログラムを提供した。防災プログラムモニター事業では、宿泊学習来館校を対象に、被災状況化を想定したシェルター作りプログラムの提供を行い、新規プログラム開発の機会とした。Re:滝野宿泊学習では、コロナ禍で宿泊学習に参加できなかったり、参加できなかったとしても感染症対策などの理由で満足に活動できなかった小学校5年生～中学校2年生を対象に、宿泊学習を模した体験活動の機会を提供した。

地域交流事業では、国営滝野すずらん丘陵公園事業に参画し、来園者を対象に自然体験プログラムの提供を行ったほか、CISEネットワークと連携し、地下歩行空間に体験コーナーを出展した。大人も子どもも宿泊学習では、小学校5年生で実施する宿泊学習を模した体験活動を小学生とその保護者向けに提供し、家族における生涯学習の場とした。

感染対策を講じつつ、施設周辺のフィールドを活かした魅力あるプログラムを開発・提供している。

冬の自然体験フェスでは、教育委員会や関係先とも連携し、昨年度を大幅に超える参加者に体験活動を提供した。

今後も野外活動の拠点施設として、関係先との連携を密にし、取り組んでいただきたい。

公園管理者と連携した取り組みとして、子どもから大人まで幅広い年齢層が参加できるプログラムを提供したほか、新たなプログラムも積極的に実施し、野外活動の普及振興に取り組んでいる。

	<p>③指導者養成事業 野外教育に関わる指導者の養成、ボランティアの育成・活動支援を行い、さらなる野外教育ネットワークの拡充・野外活動の普及振興に努めた。</p> <table border="1" data-bbox="379 315 981 517"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>指導者ワークショップ</td> <td>2回</td> <td>45名</td> </tr> <tr> <td>ボランティア活動支援事業</td> <td></td> <td>44名</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	回数	参加人数	指導者ワークショップ	2回	45名	ボランティア活動支援事業		44名	<p>指導者ワークショップでは、北海道キャンプ協会との共催でキャンピングストラクターの資格取得講習会を行った。ボランティア活動支援事業では、登録ボランティアが主催事業における事業補助や利用団体のボランティア依頼に対応した。</p>	<p>指導者向けに技術やノウハウの向上を図るワークショップやボランティアと協働して新たなプログラムの考案を行うなど、市民との連携協働に基づく施設の運営やボランティア活動支援の推進に取り組んでいる。 今後も、他の指導者やボランティアとの連携を密に取り組んでいきたい。</p>							
事業名	回数	参加人数																	
指導者ワークショップ	2回	45名																	
ボランティア活動支援事業		44名																	
<p>(5)施設利用に関する業務</p>	<p>▽ 利用件数等</p> <table border="1" data-bbox="379 779 981 981"> <thead> <tr> <th></th> <th>R3年度実績</th> <th>R4年度計画</th> <th>R4年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実利用人数(人)</td> <td>23,099</td> <td>46,600</td> <td>44,764</td> </tr> <tr> <td>閑散期の一般利用団体数(件)</td> <td>0</td> <td>20</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽不承認0件、取消し0件、減免219件、還付0件</p> <p>▽ 利用促進の取組 利用案内チラシとパンフレットを市内の幼稚園、保育園等に送付した。また、利用実績がある団体へのダイレクトメール送信により利用促進活動を行った。 その他、当財団こども事業課と連携し、児童会館を対象とした冬季間の利用誘致策として、青少年山の家周辺フィールドにおけるプログラム提供を行った。</p>		R3年度実績	R4年度計画	R4年度実績	実利用人数(人)	23,099	46,600	44,764	閑散期の一般利用団体数(件)	0	20	21	<p>市内小学校などの学校団体の利用は、コロナ前と同数まで回復傾向が見られた。前半は、新型コロナウイルス感染症に伴う利用キャンセルの影響があり、一般団体の一部がキャンセルとなった。</p> <p>引き続き、利用者の獲得のための利用促進を行っていく。</p>	<table border="1" data-bbox="1252 741 1449 779"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> </table> <p>通年実施が可能なプログラムを提供するなどして、閑散期の利用促進にも努めている。 引き続き、閑散期の利用促進や、利用者目線に立った施設運営に取り組んでいきたい。</p>	A	B	C	D
	R3年度実績	R4年度計画	R4年度実績																
実利用人数(人)	23,099	46,600	44,764																
閑散期の一般利用団体数(件)	0	20	21																
A	B	C	D																
<p>(6)付随業務</p>	<p>▽ 広報業務 ウェブアクセシビリティへの取り組みとして、利用者がより閲覧しやすい内容を検証しホームページの修正を随時行った。また、SNS(Facebook、Youtube等)も活用し、施設運営の様子を公開するなど施設の魅力発信に努めた。 ・さっぽろ・こども情報紙「あそぼ」り発行(年6回:各95,000部) ・SNS(Facebook、Youtube等)の公開</p> <p>▽ 引継ぎ業務 前年度からの継続のため、引継ぎ業務は特になし</p>	<p>既存の広報媒体(財団発行の情報紙、民間情報紙への掲載、SNSによる事業の動画・静止画の配信等)に加え、刷新したホームページも有効に活用した。引き続き、利用促進を目的に、積極的な広報活動に取り組んだ。</p>	<table border="1" data-bbox="1252 1451 1449 1489"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> </table> <p>様々な媒体による広報を実施し、利用促進に努めている。 ホームページについても利用者見やすいものとなるよう工夫がなされている。 引き続き、効果的な施設のPRや情報提供を行っていただきたい。</p>	A	B	C	D												
A	B	C	D																

2 自主事業その他				A	B	C	D														
<p>▽ 自主事業</p> <p>【パッケージドプログラム出張事業】 各種プログラムの指導業務をとおり、青少年の健全育成、野外教育の普及振興を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パッケージドプログラム出張事業</td> <td>32回</td> <td>2,246名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【インターンシップ受入れ事業】 野外教育指導など、次世代における担い手の育成につなげていくため、大学生の職業体験機会を提供した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東海大学札幌キャンパス</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【売店での物品販売及び自動販売機の設置】 窓口にて物品販売を行うほか、自動販売機による清涼飲料水及び氷菓の提供を行い、利用サービスの向上に努めた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>売上金額(物販)</th> <th>63,490円</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(令和3年度実績: 16,780円)</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>委託業務や物品の購入、パンフレットの印刷等、業務内容に合わせて、市内企業を中心に専門技術を有する企業に業務を依頼した。</p>		事業名	回数	参加人数	パッケージドプログラム出張事業	32回	2,246名	事業名	参加人数	東海大学札幌キャンパス	1名	売上金額(物販)	63,490円	(令和3年度実績: 16,780円)		<p>児童会館を対象としてヒグマ・エゾシカトランクキットを活用した出張事業を実施した。また、小学校への出張では森林循環をテーマにした環境教育プログラム、自然体験と科学学習を融合させたプログラムを実施したほか、各種イベントへの出展を行った。</p> <p>年間で開館を行ったことで利用件数の増加に伴い物品の販売も伸びを見せた。</p> <p>市内企業の積極的な活用へ向け、職員間で情報共有を図った。</p>		<p>パッケージドプログラム出張事業により、野生動物との共存や生物多様性に対する理解の促進に寄与している。</p> <p>今後も、利用者のニーズを踏まえ、施設の利用促進や野外教育の普及振興につながるような事業を実施していただきたい。</p>			
事業名	回数	参加人数																			
パッケージドプログラム出張事業	32回	2,246名																			
事業名	参加人数																				
東海大学札幌キャンパス	1名																				
売上金額(物販)	63,490円																				
(令和3年度実績: 16,780円)																					

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	入館時に各団体にアンケートを依頼し、退館時に回収した。また途中からQRコードを用いたオンラインでのアンケートにも取り組んだ。
結果概要	配布数:197件 回収数:177件(回収率:89.8%) ・利用のしやすさに対する満足度 92%(目標:88%以上) ・職員の接客に関する満足度 99%(目標:85%以上) ・活動プログラムに対する満足度 93%(目標:85%以上) ・総合満足度 97%(目標:85%以上)

感染状況を鑑みながら臨機応変に受入れを行ったことへの感謝のご意見が多く寄せられた。新たに防災プログラムを導入したことへの反応も多く寄せられた。ホームページやYoutube動画に関する反応もあり情報収集媒体として効果を発揮していることがご意見からも伺えた。

A	B	C	D
利用者の満足度は昨年度に続き全ての項目で仕様書に定める目標水準を上回る結果となっている。併せて、アンケートの回収方法にも工夫が見られた。今後も高評価を維持できるよう、利用者からの意見・要望を踏まえ、利用者満足度の向上に努めていきたい。			

利用者からの意見・要望とその対応	<p>【主な意見①】</p> <p>・炊事、キャンプファイヤー準備で丁寧な対応をありがとうございました。日常制限が多く、満足のいく体験活動が困難な中児童の視野を広げるよい体験となりました。</p> <p>・職員の方同士の連携も素晴らしいと思います。天候などのコンディションが良かったこともありますが、滝野の森というフィールドや、キャンプファイヤーの施設・設備等も素晴らしかった。</p> <p>【主な意見②】</p> <p>事前にユーチューブ等で確認できたことで、どの活動もイメージがもててよかったです。</p> <p>【主な要望①】</p> <p>・出来れば、お風呂が23時まで入れると助かります。</p> <p>・圧雪がされていなかったのが、滑りにくかった。歩くスキーの板の金具がうまくはまらないものがあり困った。</p> <p>【対応】</p> <p>24時間対応のシャワー室のご案内や、スキー等の貸出物品は用具の維持管理に努め、利用団体の更なる満足度向上に努める。</p> <p>【主な要望②】</p> <p>炊事について、事前の下見の時の説明と当日の仕方が少し違って戸惑った。</p> <p>【対応】</p> <p>職員の対応に差が無いよう、事前周知を徹底しました。</p>
------------------	--

また、スキー用具をはじめとした備品についても、引き続き維持管理を徹底し、多様なニーズに応じる施設管理のあり方を検討していく。

4 収支状況

▽ 収支 (千円)

項目	R4年度計画	R4年度決算	差(決算-計画)
収入	183,042	197,273	14,231
指定管理業務収入	182,190	196,733	14,543
指定管理費	128,635	132,303	3,668
利用料金	50,000	54,529	4,529
その他	3,555	9,901	6,346
自主事業収入	852	540	▲ 312
支出	188,591	203,621	15,030
指定管理業務支出	187,891	203,401	15,510
自主事業支出	700	220	▲ 480
収入-支出	▲ 5,549	▲ 6,348	▲ 799
利益還元	0	0	0
法人税等	0	0	0
純利益	▲ 5,549	▲ 6,348	▲ 799

▽ 説明

- ・収入については、新型コロナウイルス感染症を理由として、一部の一般団体にキャンセルが発生した。しかし学校団体の利用は平年よりは少ないものの、回復傾向にあり、利用料金は計画対比4,529千円に増加した。
- ・支出においては、利用団体数増加に伴い消耗品費、委託費等が増加となった。また、原油価格高騰により電気料金、燃料費の価格が上昇し、支出が増加した。

適正かつ計画的な執行に努めた。収入合計は、利用団体増加に伴い、当初計画を上回った。支出は利用数増加に伴い、消耗品費や委託費が増加した。光熱水費も増加したが、昨年度よりも灯油や電気使用量を押さえる工夫を行い節約対策を実施した。引き続き、収支の安定した運営を目指し、創意工夫実践していく。

A B C D

他団体との連携事業や新規プログラムの積極的な実施によりその他収入の増加に繋がっている。  
引き続き収支バランスを意識した効率的かつ安定的な施設運営に努めていただきたい。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴う休館等の措置もなく、利用団体も回復傾向が見られ利用料金収入が増加に転じた。しかし、燃料価格高騰に伴い燃料費や光熱費用の価格が上昇したため、暖房及び電気機器の利用節約に務めた。結果、前年度の使用量を下回ることが出来た。引き続き、光熱費の節約と安定的な運営を行えるよう、収支の適正化に努める。

適 不適

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

- ・各条例、規定に則って適切に対応した。
- ・情報公開請求はなかった。
- ・オンブズマンの現地調査はなかった。
- ・札幌市暴力団の排除の推進に関する条例の基本理念に則り、暴力団の活動に施設を利用させない、委託や物品購入など暴力団や暴力団関係者を契約の相手方としない等、暴力団排除に取り組んだ。

適 不適

## Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>①各種事業への取り組みについて(社会課題解決に対応した事業、他部門・他団体との業務連携等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題解決への対応事業として、感染拡大防止対策を市教委と調整の上、進めながら、学習指導要領に基づく『主体的対話的な深い学び』へのプログラム転換について、各種説明会、下見会を通じて指導者に浸透を図るべく継続的に取り組んだ。併せて各種事業の場を通じて「防災・火起こし体験」や「生物多様性」に関わる新たなプログラム開発を行った。</li> <li>また、コロナ禍において体験機会をロストした世代へ対応した「親子宿泊事業」や、3月には『Re: 滝野』と題して小学5～中学2年生の世代を対象に宿泊事業を実施した。</li> <li>・事業環境の変化への速やかな対応として、感染防止対策状況を受け通常の野外炊事を再開した。また、市教委との協力体制を強化し、札幌市林間学校への協力、冬の自然体験フェスの協働開催に取り組んだ。</li> <li>その他、こども事業課との共催により児童会館への体験プログラムを実施し、11、12、3月の利用閑散期対応としてヒグマ・エゾシカトランクキット出張事業を実施した。</li> <li>その他の事業展開として、財団職員を対象にプログラム体験会を新たに実施し、施設認知向上、活動への理解の拡大に努めた。その他、利用促進活動も兼ね、市内幼稚園に施設リーフレットを配信した。</li> </ul> <p>②組織効率化に対する取組みについて(既存業務のデジタル化等を含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル投資による事業変革の推進として、コロナ禍により2年度続けて実施を見送っていた合同説明会について、オンラインで21回実施し、参加対象も制限を設けず、回数・対象共に拡充して実施した。その他、主に利用者の入力内容を直接取り込む機能を追加することによって事務の効率化を図り、利用状況管理システムの改修を行った。</li> </ul> <p>③収支状況の管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収益では感染状況の落ち着きを受け、利用料金収益では当初予算と比較し約450万円の増収となったほか、参加料収益も約150万円の増収となった。</li> <li>費用では、利用の増加に伴い委託費と役員費を合わせ約850万円増加し、石油製品、電気料金の高騰に伴い燃料光熱水費で約300万円増加した。</li> <li>結果、増減額はマイナス約630万円となった。</li> </ul>	<p>興味関心を出発点とし、楽しみながら物事の本質を探る体験を大切に、体験活動をととして、共生に必要な感度と利他的精神を育むことによる人づくりを進めていくため、以下に注力して事業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●訴求力・事業魅力の増進 <ul style="list-style-type: none"> <li>市民に選ばれ続けるためには、ニーズに反応するためのセンスを磨き、対応するための引き出しを充実させるといった、不断の努力が必要である。安心・安全の提供を前提とし、わかりやすさと安全対策を徹底しながら、利用者、参加者に寄り添うことを第一に、プログラム開発、利用環境及び利用者支援の改善につなげる。</li> <li>・一人ひとりのウェルビーイングを重視し、誰一人取り残さない、民主的な関わりを基礎としたプログラムを開発する。</li> <li>・学校団体：各指導者の状況に合わせて提案、調整することにより、活動への理解と支持を得る。</li> <li>・一般団体：一般的な宿泊施設設備の水準を目指し、利便性を向上させる。</li> </ul> </li> <li>●関係性の構築・発展 <ul style="list-style-type: none"> <li>・共にウェルビーイングな社会を作っていくパートナーとして、利用者・ボランティア等、内外を問わずあらゆる関係者に、山の家の愛好層、山の家で活躍したい人々を生み出す。また、あらゆる活動場面でコミュニケーションを積み重ね、時間をかけて関係性を育む。</li> <li>・SNS等のデジタル媒体を活用し情報提供頻度を増やす。また、事業実施状況等の情報を随時発信することで、共感を集める仕組みづくりを進める。</li> </ul> </li> <li>●生産性の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ムリ・ムダ・ムラ」が生じないように引き続き効率化を進め、燃料光熱水費の削減、人件費の抑制に努める。</li> <li>・方針に照らして本質を再検証し、事業活動、日常業務におけるスクラップ&amp;ビルドを進める。</li> <li>・デジタルリソース、データの活用により、利用受付の簡便化、利用サービスの向上を推進する。</li> </ul> </li> <li>●財政健全性の確保へ向けた取組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理期間全体を見据えながら、収益状況の変化に合わせ、人件費、利用受入れを含む事業費、管理費について計画的に予算執行を行う。</li> <li>・市内小学校以外の宿泊利用団体数の増加へ向け、イベント等の事業実施を絡めつつ、2年先を見据えて利用促進活動を展開する。</li> </ul> </li> </ul>



【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>令和4年度については、前年度に続き感染対策を講じての施設運営となったが、利用者数については概ねコロナ前の水準と同程度に回復する結果となった。</p> <p>その中でも、施設の満足度について利用者から高い評価を維持できているのは、市民目線に立った接遇や魅力的なプログラムを提供できている結果であることが伺える。</p> <p>また、青少年の集団生活・野外活動等の指導助言に関する業務においては、新規プログラムも積極的に実施しており、より多くの市民に体験活動を提供できるよう努力されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢や市民ニーズを的確に把握し、より良い施設運営に取り組んでいただきたい。</li> <li>・学校団体の利用においては、教育目標を達成するための効果的な体験プログラムについて、学校とも連携しながら検討を行っていただきたい。</li> <li>・事業実施においては、他団体との連携強化も意識しつつ取り組んでいただきたい。</li> <li>・冬季等、閑散期の利用促進に努めていただきたい。</li> </ul>